



Title	「いちびり」
Author(s)	大和谷, 厚
Citation	Communication-Design. 2010, 3, p. 278-279
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11554
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「いちびり」

大阪大学大学院医学系研究科
大阪大学医学部保健学科 教授
大和谷 厚

「いちびり」とは、「調子に乗って、はしゃいだりふざけたりする人」のことで、関西以外の出身の方には、その意味が伝わりにくい言葉の一つではないでしょうか。また、同じ関西圏でも微妙にニュアンスに違いがあるようで、「あいついちびりやな」と言えば、京都では出しゃばりなお調子者を揶揄することが多く、大阪では逆に、面白いことを率先して行い、ある種のリーダーシップを発揮する愛嬌のある人柄に敬意を込めて使うこともあるようです。

CSCDが設立された時、メンバーを見て、このポジティブな意味合いでの「いちびり」が、思いつき「いちびり」を育てるというミッションを持った大阪らしい面白い集団だと直感的に思いました。そして、その後の5年間のCSCDの軌跡で、この直感は確信に変わりました。

ところで、平成19年度に文部科学省が募集した「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログ

ラム」、通称「学生支援GP」に本学から申請した「市民社会におけるリーダーシップ養成支援プログラム」が採択され、当時、学生生活委員長をしていた私はこのプログラムの実施責任者として企画段階からずっと関わってきました。このプログラムでは、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、「教養・デザイン力・国際性」を教育目標とし、確かな基礎学力と専門知識をもつ「しなやかな専門家」を育成しようとしている大阪大学が、社会的教養と健全な判断力により常に広い視野の中で適切な行動を選択できるCommon Senseをもち、同時に、Common Senseに適切な懐疑心をもち、常に自己を振り返り検証することのできる「阪大スタイルの市民社会のリーダー」の養成支援を目的としています。

つまり、市民社会でコアとなって活躍できる「いちびり」を育てたいと考えたのです。これはCSCDのミッションとも多くの点で一致するのでは

ないかと勝手に思っています。実際、このプログラムでは、学年ごとに募集した20～30名程度の少数の学生諸君と夏に合宿研修をし、学内外の先生方に講師として参画いただいておりますが、今夏に予定している研修では16名の講師のうち何と5名がCSCD所属の先生です。一こま4時間という比較的長い時間の中で、モチベーションの高い学生相手に思いっきりいちびっていただく予定です。

今後もCSCDが、いろんなことに楽しみながらチャレンジする、いい意味での「いちびり」の阪大生を育て続けてほしいと心から期待しています。